

中期経営計画(2010~2012)の進捗状況について

川崎重工業株式会社

2011年11月2日

構成

I. グループ全体の取り組み状況

1. 中計2010のポイント
2. 中計2010の進捗状況
3. 設備投資・研究開発等の状況
4. 新事業・新製品開発の主な取り組み
5. グローバルな事業展開の推進
6. 事業分野毎の概況
7. エネルギー・環境事業の強化
8. 重点施策の進捗状況

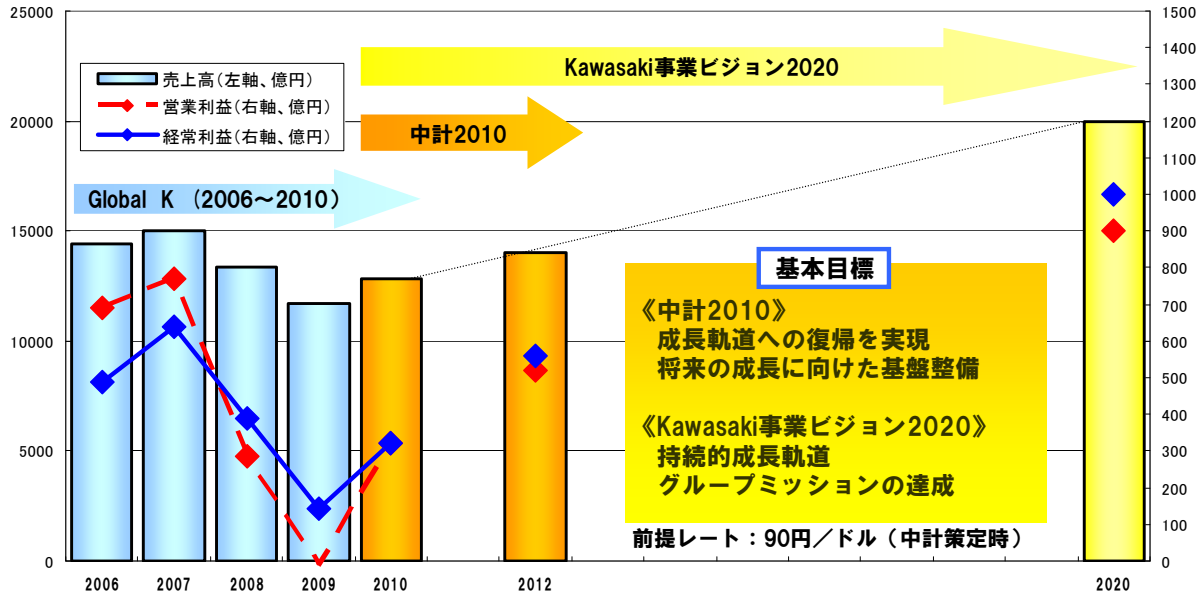
II. 各事業部門のトピックス

船舶海洋
車両
航空宇宙
ガスタービン・機械
プラント・環境
モーターサイクル&エンジン
精密機械
参考資料

1-1. 中計2010のポイント

- ①サブプライムローン問題を契機とする世界的な景気後退を受け、Global K（前中計）の見直しに着手
- ②中計の計画期間を5年から3年（2010～2012）に短縮し、環境の変化に機動的に対応
- ③将来の社会ニーズを俯瞰した長期的ビジョンを明らかにし、実現に向けた施策を中計に反映

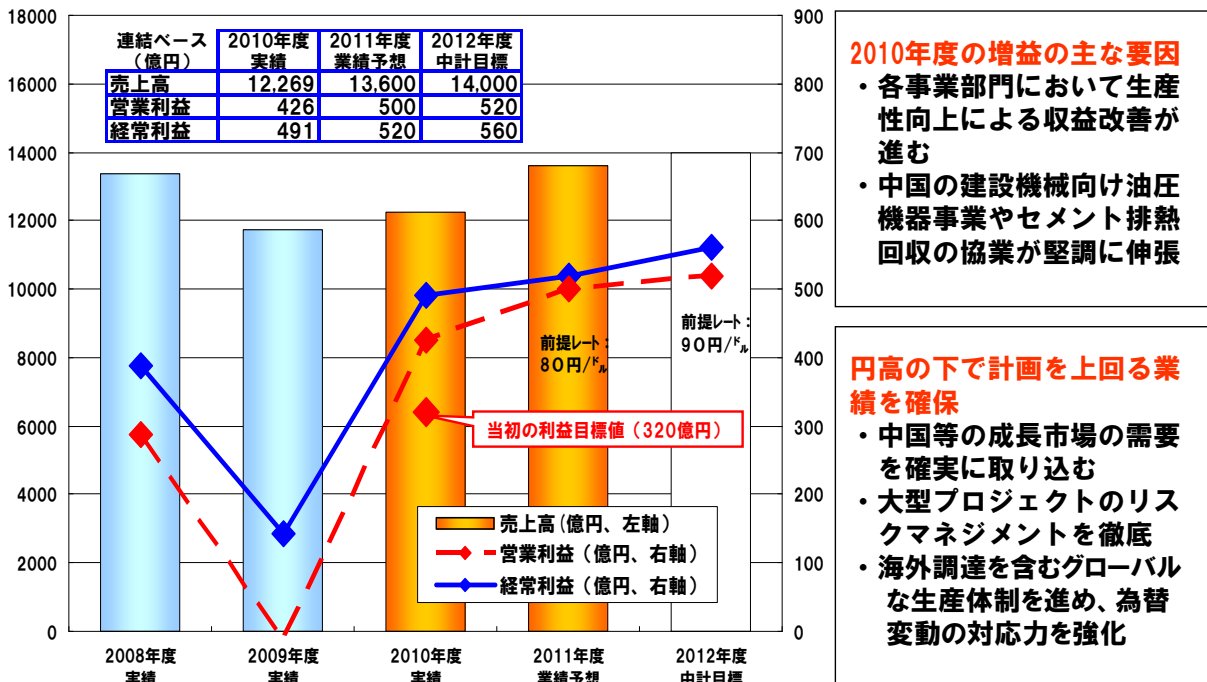
連結ベース	2012年度 (中計目標)	2020年度 (ビジョン)
売上高	1.4兆円	2.0兆円
営業利益	520億円	900億円
経常利益	560億円	1,000億円
経常利益率	4.0%	5.0%以上



1

1-2. 中計2010の進捗状況（数量計画）

- ・2010年度・2011年度第2四半期の実績は、当初計画を上回る業績を確保
- ・円高傾向の長期化懸念のなか、現時点では中計(前提レート:90円/ドル)の数量目標達成に努める

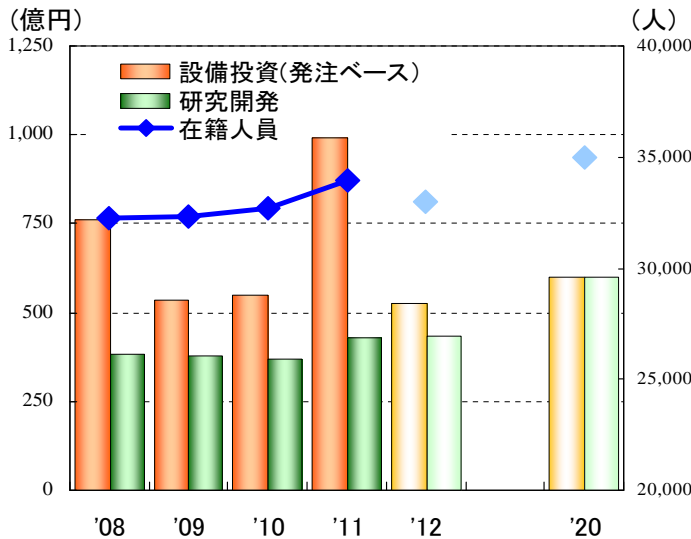


2

1-3. 設備投資・研究開発・在籍人員の状況



- 2011年度設備投資は、海外を含む生産能力増強・複合工場再編への対応により大幅に増加
→今後の投資案件は慎重に見極めるが、老朽化設備の更新は計画的に実行
- 在籍人員は、油圧機器増産・B787量産対応等により増加
→国内は社内の人材融通により柔軟に対応し、技術・技能の伝承、グローバル化に対応



主な設備投資案件：油圧機器、B787・Trent1000、大型ボイラ組立工場、神戸工場新事務所棟など
 主な研究開発案件：L30Aガスタービン、CO2フリー水素チェーン、ギガセル®など

1-4. 新事業・新製品開発の主な取り組み



LNG燃料船

当社グリーンガスイン搭載の自動車運搬船
 (川崎汽船(株)向け)を開発中



地熱バイナリー発電設備 (低沸点の媒体を活用)

九州電力(株)と鹿児島県山川発電所で実証試験を予定



セメントキルン活用型ごみ処理システム

水処理プラントと統合したゼロエミッションシステムへ
 向けて、中国都市部での実証事業を展開中



細胞自動培養装置

理化学研究所向けiPS細胞対応機を受注
 海外向け医療機器システムの開発・実証をNEDO
 から受託 (武庫川女子大、大阪大、(株)DSPリサーチとの共同)



ギガセル® (ニッケル水素電池)

需給制御用電力貯蔵装置を、関西電力石津川変電所で
 実証運用中



1-5. グローバルな事業展開の推進

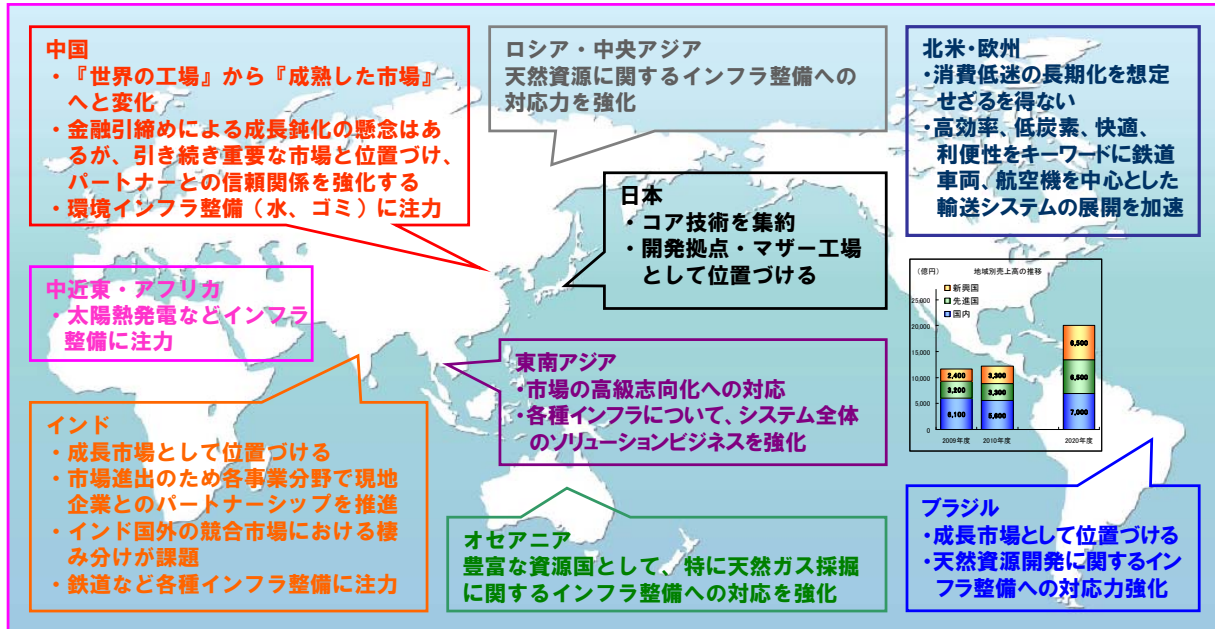
Kawasaki事業ビジョン2020の事業規模（売上高2兆円）の実現に向け、グローバルに事業を展開中
日本市場の大幅な拡大は期待できず、とりわけ新興国への進出を強化

新興国

- ・中国事業（合併含む）を中心に順調に拡大
- ・成長の流れはインド、ブラジルへ

先進国

- ・当面はドル安、ユーロ安により厳しい状況が続く
- ・B787の就航本格化を契機として高効率化が加速



5

1-6. 事業分野毎の概況

輸送システム

- ・新造船マーケットは想定以上に低迷が続き、円高により競争が激化
当面は、LNG・LPG等ガス船の受注や海洋分野への進出に注力
- ・鉄道車両は台湾システム案件受注・NY地下鉄案件の継続を足がかりとして海外プロジェクト案件に注力
- ・航空宇宙はB787初号機の引渡しを契機に本格的量産に確実に対応
- ・モーターサイクルは、リーマンショック後の先進国市場の縮小に対応した事業構造改革を完了
グローバルに生産拠点を拡充し、コストダウンを推進、為替対応力を強化伸張する新興国市場の拡販を加速

エネルギー・環境

- ・分散型発電、再生可能エネルギーの需要拡大への機動的対応
- ・低炭素社会の実現に向けCO₂フリー水素チェーンの取り組みを加速

次項にて

産業機械

- ・新興国の堅調な成長に支えられ、堅調に進捗中
- ・中国経済は、成長鈍化の懸念の中、内陸部の都市化が持続
旺盛な引き合いに確実に対応するため、生産体制の整備を加速

6

中計策定後の動き：分散型エネルギー供給、低炭素社会への移行が加速
⇒ ガスシフト、再生可能エネルギー、マイクログリッド

Offshoreへ広がるOil & Gas市場への取り組み

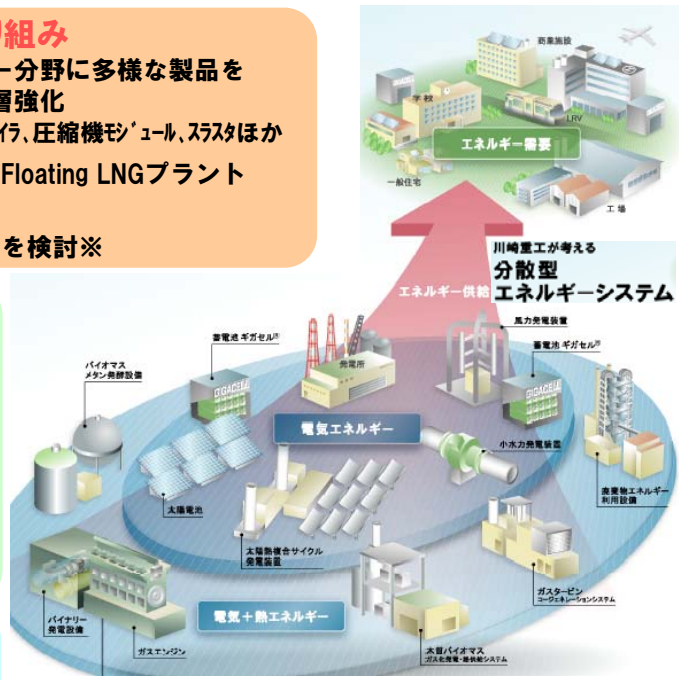


- ・ 船用機器とエネルギー分野に多様な製品を有し、取り組みを一層強化
各種タービン、エンジン、ボイラ、圧縮機モジュール、スラストほか
- ・ 2011年7月「世界初のFloating LNGプラント向けボイラを受注」
- ・ PSVやFPSO等への進出を検討※

分散型エネルギー社会への取り組み

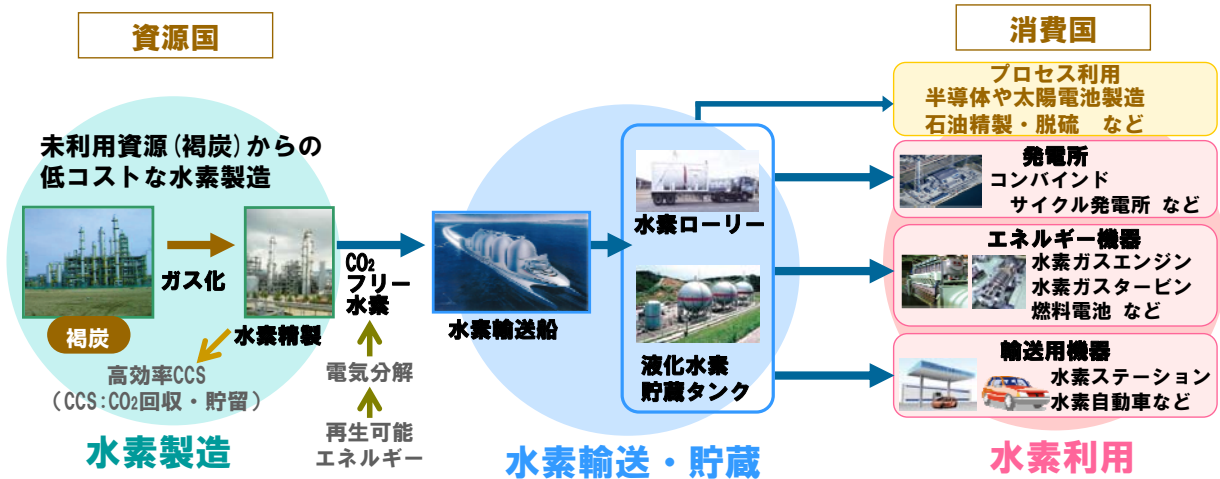
- ・ 2011年9月「国内初となる発電容量11万kW ガスエンジン発電所建設工事を受注」
- ・ 都市排熱を活用したスマートコミュニティ実証を経産省が採択
当社、大阪ガス、大阪府、大阪市、大阪府
- ・ スマートシティプロジェクトへ参画
- ・ 神戸工場に複合発電システムを導入中
太陽光、小型風力、蓄電池（ギガセル®）

更なる低炭素社会へ向けた取り組み
⇒ CO₂フリー水素チェーンコンセプト
潮流発電システム **次頁にて**



※ PSV : Platform Supply Vessel
FPSO: Floating Production Storage Offloading

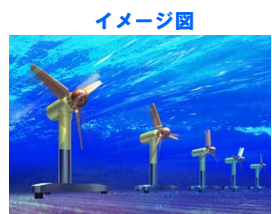
CO₂フリー水素チェーンコンセプト



- ・ 商用チェーン（2025年運用開始を想定）のフィージビリティスタディ（FS）を、日本・豪州両政府の支援の下で実施
- ・ 商用チェーンのFS結果を受け、2017年の実証的チェーンの実現を目指し、NEDOの委託事業として概念設計を開始
- ・ 褐炭からの水素製造ベンチ設備が完成、試験を開始
関係先との連携をさらに強化し、技術開発（水素輸送・貯蔵設備ほか）を加速

潮流発電システム

- ・ 沖縄海域における実証試験のFSへ着手（沖縄電力(株)と協力、NEDO受託事業）
- ・ 欧州海洋エネルギーセンター（スコットランド）でも実証試験を予定



1-8. 重点施策の進捗状況

中計2010における重点施策

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| ① 将来の収益基盤となる事業の強化・育成(前掲) | ⑥ 工場・事業所の有効活用 |
| ② グローバルな事業展開の更なる推進(前掲) | ⑦ 人材の育成・職場環境の整備 |
| ③ グループ全体での知的資産の共有・活用 | ⑧ 環境経営の推進 |
| ④ 技術力の強化 | ⑨ IT戦略と体制整備 |
| ⑤ ものづくり力の強化 | ⑩ 全社リスク管理の実施 |
| | ⑪ 本社部門の質的向上 |

本社各部門が中心となって、それぞれのテーマについてカンパニーに対する『横串活動』を推進中
 主な具体的な成果は以下のとおり

- ・大規模災害に伴う事業継続計画 (BCP) の整備
 インフラ産業を担う当社グループの社会的責任を果たすために維持すべき機能を新たに洗い出し、BCPの中で明確化
- ・リスク管理体制の運用開始
 2011年度は「大規模災害リスク」「情報漏洩リスク」「設備老朽化リスク」を取り上げ、リスク対応策を計画・実行し、モニタリングを行う
- ・知的資産の共有化
 『人財マネジメントシステム』の構築、グループ統合による人材交流の活性化
 全社横断的な対応によるインフラ提案力の強化(『スマートシティプロジェクト』への参画等)
- ・複合工場の再編
 神戸工場:リニューアルは事務所整備(間接業務効率化)が順調に進捗
 明石工場:データセンター整備、間接業務効率化、量産部門と受注生産部門の効率的配置に着手
 播磨工場:臨海機能を活かした多種大型構造物への対応に着手、エネルギー・環境分野の拡大に備えた拡張余地の整備

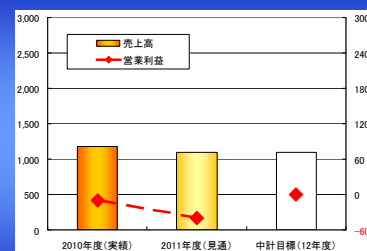
II. 各事業部門のトピックス①

船舶海洋



新開発LNG運搬船

- ・環境負荷低減技術を活用した高付加価値船の開発
 再熱サイクルプラントを採用したLNG船の1番船竣工、ガス焚船(自動車運搬船他)の開発
- ・三拠点(神戸、坂出、中国)一体となった協業体制の深化
 中国造船所の生産性向上、受注・調達等のメリット追及

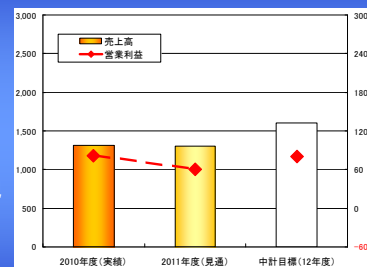


車両



ワシントン首都圏交通局向け新型地下鉄電車

- ・台中市都市交通機電システム受注 (2011年4月)
 システム全体のコンソーシアムリーダーとして受注
 海外市場での旺盛な都市交通システム需要に対応
- ・ワシントン首都圏交通局向け新型地下鉄電車428両受注(2010年5月)
 全米第3位の地下鉄車両保有数を誇る同交通局からの初受注
 本契約に付随するオプションが行使された場合、過去最大規模(748両)の鉄道車両受注案件となり、同交通局の半数以上が当社製となる



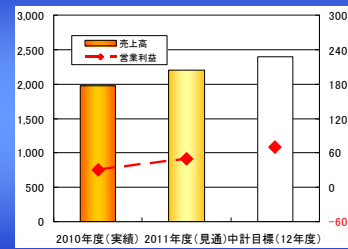
II. 各事業部門のトピックス②

航空宇宙



ボーイング787

- ・ボーイング社から航空会社にB787初号機引渡し（2011年9月）
今後の増産に確実に対応していく
- ・防衛省向け大型機の開発並びに量産
次期哨戒機：量産契約を履行中
次期輸送機：試作機を納入済
今後、量産化の実現に向け取り組んでいく

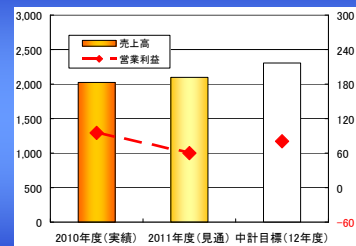


ガスタービン・機械



カワサキグリーンガスエンジン

- ・国内初となる発電容量11万kWのガスエンジン発電所建設工事を受注（2011年9月）
カワサキグリーンガスエンジンの効率、環境性能への高い評価
- ・民間航空機向け航空エンジンプロジェクトの推進
Trent1000: ボーイング787初号機引渡し（2011年9月）
Trent XWB (A350用): ロールスロイス社にて試験中
当社は中圧圧縮機モジュールを担当



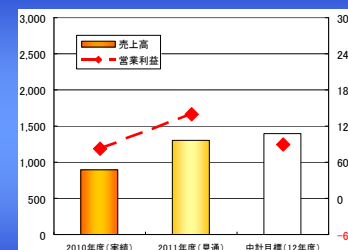
II. 各事業部門のトピックス③

プラント・環境



中国合弁会社（蕪湖市）

- ・中国合弁事業拡大
セメントプラント向け主要機器の内製化に向け、中国の合弁会社（CKE）に新工場を建設
更なる合弁事業拡大と収益基盤強化を図る
- ・次世代主力製品の早期事業化
当社既存技術の積極的な融合・活用を図り、環境性能の高い次世代主力製品の早期事業化を目指す（CKKシステム等）
- ・再生可能エネルギー分野への対応

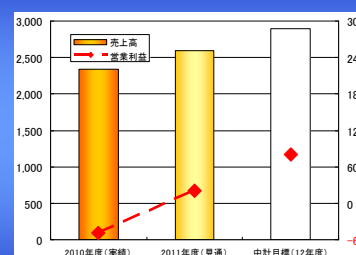


モーターサイクル&エンジン



ZZR1400

- ・「Fun to Ride」「Ease of Riding」「環境」をキーワードとする製品開発
- ・新興国向け販売拡大
インドネシア、ブラジル等新興国市場でNinja250R他オートバイのモデル増販
- ・新興国拠点の拡充
先進国市場向生産拡大（タイ）、二輪車現地生産・販売開始（ブラジル）
汎用エンジンの生産開始（中国）、二輪車販売会社設立（インド）



精密機械

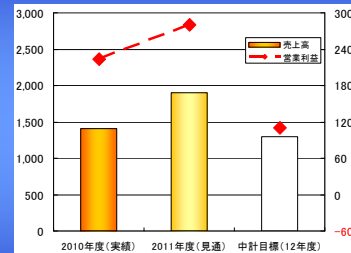


KPM (蘇州) 新工場

- ・世界的に拡大基調にある建設機械向け油圧機器需要に対応
- ・西神戸工場の新工場棟での油圧ポンプ本格生産開始 (2011年6月)
- ・中国生産子会社 KPM (蘇州) での新工場稼動 (2011年10月)

《ロボットビジネスセンター》

- ・自動車業界向けロボットの競争力強化
- ・スポット溶接専用ロボット2機種 (高速・コンパクト) の市場投入
- ・中国、タイ、インドなどでの販売・サービス体制の強化



参考資料

グループミッション

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する
"Global Kawasaki"

— 東日本大震災からの早期復興に向けて —

《災害直後の支援》

- ・国内外の関係会社を含めて総額1.5億円の義捐金を寄付
- ・モーターサイクル (『D-TRACKER X』 『D-TRACKER125』)、ホイールローダ、破砕機を提供 (総額1億円相当)
- ・宮城県に対し、被災した防災ヘリの代替として社有機を貸与

《事業活動を通じた支援》

仮設焼却炉の運營業務委託や被災インフラの復旧工事などに対応
電力不足に伴う各種分散型発電機器の生産体制を強化
被災地に対する各種の復興計画を提案中

